

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「人間を照らす光」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」(ヨハネ1:1～5a)

「いのち、尊厳限らないもの」というテーマで行なわれた、2012年日本聖公会宣教協議会から5年が経ち、12月に入ってから、各教区財政担当者連絡協議会、各教区人権問題担当者の集い、各教区宣教担当者の集いが行なわれました。それらの話し合いや学びの中で、教勢・財政・人材・疲れなど様々な不安はあるけれども、教役者と信徒のコミュニケーションを密にして地域の人々が集いやすい雰囲気を作っていくこと、いのちの尊厳に寄り添うとはどういうことなのか、神さまに与えられたいのちを生きる者として誠実に祈り・仕えることが大切であることを再確認しました。私たちは、ちいさな群れ・力のない者であっても、人間を照らす光として世に来られるイエスさまに信頼して歩む信仰が与えられていること、その喜びを共にできる仲間が与えられていることに感謝したいと思います。

イエスさまに従う道は、非合理的で回りくどく、損をする生き方のように見られてしまうことかも知れません。それでも、十字架の死と復活のイエスさまを、道であり真理であり命であり、光であると信じ、従おうとする者であることを私たちは止めようとはしないのです。

これからも、神さまによって与えられた、一人ひとりのいのち、一つひとつのいのちに丁寧に寄り添って歩んできたのか、歩もうとしているのかという視点でみ言葉に聴き、暗闇の中に少しでも光を灯す存在となれますようにと、イエスさまの体と血にあずかることによって励まされて生かされ、すべてのいのちの尊厳のために祈りながら、クリスマスを迎えたいと思います。(次頁へ続く)

□会議・プログラム等予定

(12月25日以降)

1月

- 8日(月)～11(木) 各教区青年担当者の集い〔韓国・済州島〕
- 18日(木) 日韓協働委員会〔管区事務所〕
- 19日(金) 人権問題担当者会議〔管区事務所〕
- 22日(月) ウィリアムズ主教記念基金・基金委員会〔立教〕
- 25日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 27日(土) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔京都〕

2月

- 5日(月)～6(火) 各教区正義と平和担当者会〔京都〕
- 6日(火) 正義と平和委員会〔京都〕
- 7日(水)～9(金) 定期主教会〔横浜〕
- 9日(金) 女性の聖職に関わる特別委員会〔管区事務所〕
- 20日(火) 常議員会〔管区事務所〕
- 27日(火)～3月1(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 28日(水) 聖公会/ローマ・カトリック合同委員会〔管区事務所〕

<関係諸団体会議・他>

- 1月17日(水) NCC 役員会〔早稲田〕
- 21日(日) NCC・カトリック一致祈祷集会〔神田キリスト教会〕
- 23日(火) WCRP 日本委員会・新春学習会〔立正校正会〕
- 26日(金) カルト問題キリスト教連絡会〔管区事務所〕
- 31日(水) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕
- 31日(水) 日本宗教連盟幹事会・理事会〔増上寺〕
- 2月1日(木)～2(金) 外キ協全国協議会・全国集会〔北海道〕
- 3日(土) NCC 主催・宣教会議2018 第4回プレ集会〔早稲田〕
- 5日(水) 日キ連常任委員会・定例講習会〔管区事務所〕
- 23日(金)～25(日) U26 全国集会〔京都〕

☎管区事務所の冬期休業 12月29日(金)～1月5日(金) 管区事務所業務は休業です。よろしくお願いたします。

2018年もみなさまにとって恵みのあふれる1年となりますようにお祈り申し上げます。クリスマスおめでとうございます。



□常議員会

第62(定期)総会期第9回 12月5日(火)

<主な決議事項>

1. 2018年度「大斎克己献金国内伝道プロジェクト」奉献先について、函館聖ヨハネ教会からの申請について協議し、決定した。
2. 2017年度収支予想および2018年度収支予想について、年金勘定に関しては年金事務の自主運営に伴う表記変更の

補正を行ない、経常勘定に関しては補正の必要はないと判断した。

次回および次々回会議: 2018年2月20日(火)、4月12日(木)

2017年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	広谷和文 津田武典	大町信也(長) 沖田京子	池田 亨 尾崎敏明
東北	聖職 信徒	長谷川清純 赤坂有司(長)	涌井康福 坂水かよ	八木正言 竹石和己
北関東	聖職 信徒	小野寺 達(長) 横川 浩	矢萩栄司 菊池邦杏	木村直樹 谷川 誠
東京	聖職 信徒	高橋 顕(長) 黒澤圭子	笹森田鶴 後藤 務	中川英樹 植松 功
横浜	聖職 信徒	入江 修(長) 中林三平	田澤利之 村井恵子	宇津山武志 高橋 保
中部	聖職 信徒	土井宏純(長) 河西恵子	西原廉太 上野光一郎	下原太介 池住 圭
京都	聖職 信徒	大岡左代子(長) 佐々木靖子	古本靖久 木川田道子	三木メイ 小野周一
大阪	聖職 信徒	内田 望(長) 辻 節子	竹林徑一 小池義郎	義平雅夫 豊川雅章
神戸	聖職 信徒	芳我秀一(長) 大東正人	小南 晃 宮永好章	上原信幸 大東康人
九州	聖職 信徒	山崎貞司(長) 東 美香子	小林史明 秋山みどり	李 浩平 細川眞二
沖縄	聖職 信徒	戸塚鉄也(長) 富本盛彦	金 汀洙 真志喜 修	西平妙子 洲鎌君代



ヨハネ吉田雅人師父

日本聖公会
東北教区主教に就任

2017年11月30日(使徒聖アンデレ日)に日本聖公会東北教区主教座聖堂(仙台基督教会)において、吉田雅人師の主教按手式および主教就任式が執行された。説教者 主教ステパノ高地 敬師父(京都教区主教)



《人事》

北海道

- 司祭 ジョシュア李 香男 2017年11月30日付 帯広聖公会牧師及び帯広聖公会幼稚園チャプレンの任を解く。
2017年12月1日付 本人の願いにより、米国聖公会ロス・アンジェルス教区での勤務を許可する。
- 司祭 グレゴリー松井新世 2017年12月1日付 帯広聖公会管理牧師及び帯広聖公会幼稚園チャプレンに任ずる。

神戸

- バルナバ永野拓也 2017年11月23日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

聖公会手帳2018



大型判(A5判・本文432ページ) ポケット判

(写真はイメージです)

- 2018年度教会暦日課表を完全収録
- ポケット判の紙質を軽量化、携帯するのに便利になりました
- 日本聖公会管区事務所による責任編集
- 全国の聖公会の教会・伝道所、関係施設情報も充実しています

大型判 2,200円(税込) / ポケット判 1,200円(税込)

お求めは聖公書店(☎04-2900-2771)または、お近くの書店まで

発売中・在庫僅少!!

日本聖公会管区事務所 2017年10月

絶望の暗闇に輝く光 ～クリスマス・メッセージ～

日本聖公会 首座主教 ナタナエル 植松 誠

11月下旬、原稿を書いているこの時期、札幌は雪が降ったりやんだり、積もったかと思うと雨になって少し解け、夜に気温が下がるとそれがすべて凍ってしまい、次の日の朝はスケートリンクのようになってたりと、本格的な根雪になるまではなんとなく不安定な日々が続きます。日暮れが早くなり、夕方4時半にはもう真っ暗。まだ根雪にならない道は暗く寒々として気持ちまで塞いで冷え冷えとするのです。

こういう季節、先日来から、いろいろな残忍な事件が起きたり、考えられないような不祥事があったり、ニュースを聞かされた時に何かやりきれない気持ちになります。クリスマスの喜び、光を伝えるには、あまりにも世の中が絶望に満ちていると感じるのです。その絶望を抱えながら、それでも私たちはクリスマスの準備をします。クリスマス礼拝のこと、愛餐会のこと、ご馳走のこと、皆が楽しめるように出しものを考えたり…。でも、時にはそれらが喜びに程遠く、重荷のように感じることはないでしょうか。クリスマスは私たちにとって本当はどうあるべきなのだろう、ただ楽しいだけで終わらせて良いのだろうか…と。

キリストがお生まれになった最初のクリスマスは、本当はどのような光景だったのだろうかと思い巡らします。ヨセフにとって、臨月のマリアにとって、どれほど苦しい道のりを歩かなければならなかったことか。およそ楽しい旅ではなかったでしょう。その旅路の途中で御子はお生まれになります。真っ暗な中、ただただ神様からのお告げを信じて辿り着いたのは想像もしなかったであろう馬小屋でした。今でこそロマンティックに描かれている馬小屋ですが、それは今まさに赤ん坊を産もうとしているマリアにとっては泣きたいほどに、絶望の場所であったと推察します。

讃美歌21にこのようなクリスマスの歌があります。

「この聖き夜に、われらに代わりて苦しみ負うため、御子は生まれたもう。キリエレイソン。この夜 世界はよろこび祝えど、馬小屋の御子のゆくては十字架。キリエレイソン。こよい誰が知る、まぶねのかたえに 墓は備えられ 死の日を待てるを。キリエレイソン。貧しきふしどに まどろむみどり子、その身に負いたもう われらの審きを。キリエレイソン。よみがえりの朝、はじめてわれらも み顔を仰ぎて 心より歌わん。主にホサナ。」(273番 この聖き夜に)

クリスマスの福音は、絶望の暗闇の中でこそ輝き出ずる贖いの良きおとずれであり、御子は私たちが絶望から救い出すために来られたこと、誕生の瞬間から、ゆくてに十字架を指し示されていたこと、そしてその死を通して私たちにはよみがえりの朝が約束されていることなのです。私たちの住む現実の様々な闇の中で、クリスマスを心から楽しむことのできない苦しみ…。しかし、まさにその苦しみのために御子がお生まれくださったことに思いを巡らすと、どんなに心暗く沈んでいても、やはり「クリスマス」は私たちにとって喜びとなるはずなのです。いろいろな重荷を負いながら、絶望や怒りを抱えながら、悲しみに沈みながら、でも、クリスマス、おめでとう！と心から叫びたいのです。

ルーテル・カトリック

宗教改革500年共同記念行事に参加して

エキュメニズム委員 司祭 ダビデ 市原信太郎

去る11月23日、日本福音ルーテル教会・日本カトリック司教協議会共同主催による「宗教改革500年共同記念：平和を実現する人は幸い」が、長崎のカトリック浦上教会(浦上天主堂)を会場に行なわれた。日本聖公会から前九州教区主教の五十嵐正司主教、管区事務所総主事の矢萩新一司祭、エキュメニズム委員の小生の3名が参加した。その他、信徒数名の参加もあった。

準備の議論が深められる中で、両教会の対話と一致の歴史を世に示すこと、共にキリストに結ばれた教会として平和のメッセージを発信することへの責任が認識され、日本のキリスト教が大きな迫害や弾圧を越えて再出発した地であり、また被爆地である長崎が選ばれたと伺っている。この2つのテーマが、行事全体を通じて常に響いていた。

両教会、また日本聖公会を加えた2教会・3教会の合同礼拝はこれまでに何度か行なわれてきたが、いずれもエキュメニズム委員会レベルでの実施であった。しかし今回は教会レベルの共同行事とすることの重要性が共有され、様々な困難を乗り越えて実施の運びに至ったとのことで、これを共に喜びたいと思う。

当日は、両教会からそれぞれ600人、計1,200人ほどの参加者があり、大きな聖堂が満杯になる盛況であった。またルーテル教会ではこの行事に合わせて長崎巡礼のプログラムなども企画され、全国の教会を挙げての行事となったのは、準備に当たった方々のお働きの賜物と言えよう。個人的なことだが、ふだんなかなか会えない懐かしい顔にいくつも出会えたのはとても嬉しかった。

プログラムは、午前中がシンポジウム、午後が共同記念礼拝という構成であった。昼食は浦上

教会のご厚意で全員におむすびと飲み物が用意され、暖かいもてなしのお心をありがたくお受けした。なお、当日の様子はYouTube (<https://youtu.be/CkLUSYOPZoA>) で見ることができる。



壇上一杯の両教会聖職・教職

午前のシンポジウムは、地元の橋本勲神父(カトリック中町教会主任司祭)、ルーテル委員会から石居基夫牧師(ルーテル神学校校長)、カトリック委員会から光延一郎神父(イエズス会司祭・上智大学教授)の3人がシンポジストで、ルーテル九州教区長の小泉基牧師が司会をなさった。橋本神父は、「先日の教会のバザーで免罪符を売ればよかった」という会場大受けのジョークから始め、「崩れ」という言葉を一つの手がかりに、長崎の教会の歴史と長崎で働く司祭としてのご自分の歩みを語られた。キリストの検挙事件を「崩れ」と呼んだのは、浦上のキリスト史を発掘した浦川和二郎司教であり、そこにはイエス・キリストの死がイメージされていたであろうこと、すなわちそれは復活に至る「崩れ」であったということ、そしてカトリック教会の「福音化」の作業は、イエス・キリストの復活体験に純粋にさかのぼり、そこからすべてを始めようとする営みであることなどを、「キリスト一点絞り」という印象的なフレーズを用いながら熱

く説かれた。そして、原爆の悲劇をもこのような意味での「崩れ」としてとらえる可能性に言及されたのが印象的であった。石居牧師と光延神父は、両教会のエキュメニズムへの関わりに言及しつつ、神が造られた世界への責任的関わりという観点から両教会の姿勢を語られたが、この点に関して両教会、そして全世界の教会が共に働くことの重要性が改めて浮き彫りとなった発表であった。



シンポジウム。左から光延神父・石井牧師・橋本神父

午後の共同記念礼拝は両教会からそれぞれ100名ほどの聖職・教職が壇上に登り、前田万葉大司教と大柴讓治牧師による共同司式で行なわれた。2つの福音が朗読され、そのそれぞれについて高見三明大司教・立山忠浩牧師が説教された。祭壇上には開かれた聖書がシンボルとして置かれ、み言葉における一致という、この礼拝の一つの強調点が浮かび上がった。そして、分裂の歴史を悔い改める回心の祈りに続き、昨年10月31日スウェーデン・ルンド大聖堂での共同記念礼拝に際して出された「共同声明」が分かち合われ、さまざまな教会や団体の代表を含めて共同祈願が献げられた。「主の祈り」はカトリック・聖公会共通訳が用いられた。一つの工夫として、献金に合わせて「折り鳩」献げられたが、これは全国から



共同祈禱を献げる矢萩総主事

平和への祈りを持ち寄るという趣旨で集められたものであった。礼拝全体が、過去の対立への責任、共に平和を語る責任という2本の柱に貫かれていたことに感銘を受けた。派遣としての司式者団の退堂は5分以上も続き、これから教会が世界で担っていく責任の大きさを改めて感じさせられた。



折り鳩を受け取る司式者の前田大司教(左)・大柴牧師

エキュメニズムとは、「共に経験するもの」であると思う。今回の記念行事は単なるお祭りではなく、両教会が共にしてきた対話と相互理解の経験が形となったもので、記念行事そのものがこの経験の新たな積み重ねと言えよう。宗教改革の伝統を受け継ぎつつ「カトリック」的であることを歴史の中で常に求めてきた私たち聖公会も、キリストの平和がこの世界の隅々にまで行き渡るよう、両教会と共に働いていきたいと強く願うものである。

2017年度 「礼拝及び礼拝音楽担当者会」 報告

礼拝委員 司祭 宮崎 光 (立教大学チャプレン)

礼拝委員会主催「2017年度 礼拝及び礼拝音楽担当者会」が、11月17～18日、神戸教区主教座聖堂神戸聖ミカエル教会にて開催されました。「礼拝における詩編・カンテイクル(詩頌／賛歌)」をテーマに、主題講演者として水野隆一氏(関西学院大学教授・日本基督教団讃美歌委員会委員長)をお招きし、各教区からの礼拝及び礼拝音楽担当者20名と礼拝委員及び管区総主事が、小林尚明神戸教区主教陪席のもと、共に学び、考える時を持ちました。

この集まりは、『古今聖歌集増補版'95』出版と聖歌集改訂委員会が編成された1995年から、毎年開催された「教区礼拝音楽担当者会」を引き継ぐものであり、2006年の『日本聖公会聖歌集』発行までは、聖歌集改訂の進捗状況報告と共に、その作業のために全教会の理解と協力を促す機能を果たしていました。『聖歌集』発行後は、普及促進と共に、礼拝音楽担当者の教区を超えた連携や交流も根付いて、励ましと刺激を得る機会としても続けられてきました。第1回から数えると19回を重ねます。祈祷書改正委員会も始動した今、聖公会が伝統的に大切にしてきた「祈祷書」による礼拝と、そのために必要な礼拝音楽を、絶えず抱き合わせて、皆で考え続けてゆくことが、日本聖公会の福音宣教の推進力になるという確信と使命をもって、二日間のプログラムが編成されました。

各教区からの報告では、特に聖餐式における旧約聖書朗読後の詩編を、どのように用いているか(唱える、歌う、用いない等)についての情報を共有しました。それをふまえた上で、水野先生の主題講演では、詩編が「信仰の教科書」であるという現代の旧約聖書学の立場から、「詩編を唱えることで、詩編に記さ

れている信仰が自分のものとして心の中に染み込んでゆくのです。そうして、感謝、賛美の中身を教えるものとなります」と、その重要性を提起されました。また詩編には、「聞きたくないような内容もあるけれど、自分で取捨選択せず、すべてを読むこと」を勧め、そのための仕方を定めた、祈祷書の「朝夕の礼拝」の聖書日課・詩編の配分表は、聖公会の宗教改革以来の、「聖書を全信徒のものにするためのプログラム」として高く評価されました。

歴史的にも、教会は詩編を用いるための工夫と努力を重ね、そこからカルヴァンのジュネーブ詩編歌が生まれ、また英国ではアイザック・ウォッツが英語詩編の韻律化(パラフレーズ)に取り組み、例えば聖歌452番「神はわが力」(詩編46編のパラフレーズ)のように歌い継がれるものがあります。聖公会の伝統音楽としての「アングリカン・チャント」は、散文詩を歌うための方法としてはたいへん便利で有効なものですが、本来は指揮者が必要な合唱音楽(聖歌隊用)とも言えます。それを会衆全体で歌うための、努力と工夫の事例報告もありました(東京教区より)。いずれにせよ、礼拝の中でどのように詩編を歌うか、詩編に親しむかは、今や世界的な課



題、世界の諸教会の関心事です。そこで私は、一つの問いを立ててみます。日本聖公会としては、詩編や賛歌を、『祈祷書』本文のまま「歌い、または唱える」とあるところに、韻律化された歌(パラフレーズの聖歌等)を用いることが許せるか?という問いです。祈祷書改正においても、検討してゆきたい課題だと思っています。

「ヒム・フェスティバル(聖歌を歌う時間)」では、詩編のパラフレーズとして、昔から受け継がれてきたもの(聖歌333番、他)や、現代的再解釈による新しい聖歌「主よ、わたしを究めO God, You Search Me」(詩編139編)等を紹介し、ま

た現代の聖歌作家、作曲者による新作聖歌も紹介しました。まだ日本語詞のない聖歌も紹介したので、いつか訳詞が整って、歌える日が来ることを期待します。

また、礼拝委員会・祈祷書改正委員会の活動報告(市原信太郎委員による)では、祈祷書出版までの見通しや、作業進捗状況と課題などが共有されました。そして、小林主教の司式・説教による聖餐式をもって、今年の礼拝及び礼拝音楽担当者を結び、それぞれの場へと送り出されました。

宣べ伝える人がいなければ、どうして聞くことが出来よう。遣わされないで
どうして宣べ伝えることが出来よう。 ローマの信徒への手紙 10:14

日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)

創立90周年記念礼拝を終えて

BSA 副会長 ダビデ倉石 昇(千葉復活教会)

快晴の11月25日(土)13時 東京聖アンデレ主教座聖堂にて題記、感謝礼拝、聖餐式、入会式、再宣誓式が催された。BSA 名誉会長植松誠首座主教ご臨席のもと、KEEP 協会糸魚川順会長、浅田豊久副理事長、管区事務所総主事矢萩新一司祭のご出席をいただいた。

当日は朝9時からBSA 本事務所がある東京教区会館3階にて理事会、評議員会。続いて11時から第101定期総会を開催し、会員は347名中参加者112名(委任状を含める)、遠来の支部会員や久しぶりの先輩会員を囲み18名の物故会員に主の祝福があらんことを祈り、節目の100年に向けて熱心に審議した。

BSAの創設者ポールラッシュ先生は1897年(明治30)11月25日米国ケンタッキー州生まれで将来は大ホテルマンを志していたが、全くの偶然から未知の国日本が関東大震災で損壊した横浜YMCA再建のため急遽古い客船で3週間近くかかって1925年(大正14)5月横浜に第1歩

を進めた。

復興終了次第すぐ帰国を予定していたが、米国より来日の先輩たちの献身的活動を目の当たりにして、人生観が激しく変化、自分も後に従いたいと決意し82才の生涯を日本で過ごされた。

ポールラッシュの尊敬する師はジョンマキム主教、チャールズライフスナイダー主教、米国BSA 会員聖路加国際病院の設立者トイスラー博士、そして英国教会医療宣教師メリーコンウォール女史の4名の名を挙げている。

1927年(昭和2)信徒運動団体「日本聖徒アンデレ同胞会」(当初は米国アンデレ同胞会日本支部)を設立、富士山が大好きなポールラッシュ先生は清里の山麓に、清里と大泉の名をとって「清泉寮」を建設し、若者の宿泊研修場(注)とした。そこから4名もの主教さま(植松従爾師父、武藤六治師父、植松誠師父、武藤謙一師父)が誕生した。幼少期の植松誠主教もそのお一人である。

感謝礼拝のお説教は、首座主教植松誠師父

をお願いしたが、いつもポールおじさんが身近で誠実な信仰生活を共に歩まれたご経験を「世の波騒げどみ声しずかに」(聖歌525)をはっきりと口ずさみながらお話しくださり誠に印象的だった。(BSA「VISSION」誌に掲載) 入会式は、4名、新会員は教会活動のベテラン。そして参列者一同立って再宣言に应答した。

首座主教の祝福を頂き聖歌521番「主よ終わりまで仕えまつらん」を斉唱して感謝礼拝を終えた。

15時からホールにて懇談会、ポールラッシュ師の語録「Do your best it must be first class in the name of Christ」を念頭に、どれも心を込めたパネルによる各支部活動、近況報告があって、豊かな恵みのひと時を持った。感謝

(注) 現在の公益財団法人キープ協会 (Kiyosato Educational Experiment

Project) で「清泉教育実験計画」により戦後以来、日本の最重要課題の食糧、保健、信仰、青少年の問題を基礎として国内外に多彩なプログラムを展開している。

私達は生き方として、人生の見物人にならず自分に与えられた課題とし格闘する競技者になる信念をもち、また後進に継承すべきと思っている。



『信頼のしるし』“Tokens of Trust” を翻訳して

— 宣教のための翻訳作業 —

芦屋聖マルコ教会 翻訳の会

本書は、前カンタベリー大主教ローワン・ウィリアムズ師父の講話をまとめたものである。使徒信経、ニケヤ信経に関連付けて、信徒の率直な疑問、すなわち、神を信じることの意味、世のあらゆる災害や苦難の中でも神は全能であるという意味、イエスキリストの宣教と復活の意味、などについてわかりやすく論じられている。

ウィリアムズ師父の著作については、とにかく難解であるという評判があるが、この作品に限って言えば論旨は明快で読みやすいと言える。それは序文の中で著者自らが「執筆に際しては、説教のときのように話を幾分談話風に進めるように心がけた」と言っていることから分かる。また本書の内容は、弱い立場の人、人間



の尊厳、平和の問題、環境問題などにも及び、ウィリアムズ師父が多角的な視野から論理を展開していることが理解できる。

本書を翻訳することになるとは、私たち翻訳の会の仲間は誰も予想さえていなかった。英国旅行の際に、ケンブリッジ大聖堂の書店でたまたま手にしたのが原著であった。著者には30冊以上の著作があるが邦訳がまだ1冊もないこと、著者の本についてのやさしい解説書が出るぐらい、著作の内容は高尚難解であること、などが分かってくると、翻訳にすぐに取り掛かる勇気はなかった。

しかし、翻訳の会2013年刊行の『なぜ教会に行くの?』“Why Go to Church?”と2016年刊行の『なぜクリスチャンになるの?』“What is the Point of Being a Christian?”の著者ティモシイ・ラドクリフ神父(元ドミニコ会総長)がウィリアムズ師父ととても親しいことを知り、ご相談したところ、「是非訳してみても」と逆に背中を押されてしまったのである。

本年9月、出来立ての本をもって、著者に会いに出かけた。著者はとても喜んでくださり、ラドクリフ神父から聞いているので私たちの翻訳は信頼していると話された。また「難しいと言われる本をよく訳してくれました」と褒められた。そして次に邦訳するとすれば、ご自身の著作の中でどの本をお勧めになりますか、とたずねると、直ちに“Being Disciples”(仮題:『弟子であるこ

と』)とお答えになった。翻訳の会ではそのための準備を既に始めている。

出版に当たっての大きな悩みの1つは、資金である。採算的には約4千冊を売り上げなければならぬ。しかし私たちの翻訳の会の体験から言えば、よほどの知名度や評判がない限り、殆どのキリスト教関係の書物は2千冊も売れば上出来、という状況である。故に、世のため、人のため、宣教のため、と願っても、多くの場合は持ち出しになってしまう。寄付を頂けるような団体や個人を探しているが、なかなか見つからない。



ローワン・ウィリアムズ師父

約10年前、教会の牧師から、『アルファコース』の英文パンフレットを訳してみないかと言われたのが、翻訳の会の出発点である。良い仲間にも恵まれ、仲間同士でいろいろ議論しながら、聖職者のアドバイスもいただいて、何とか4冊目の出版まで到達することができた。御心のままに導かれてここまで来たことを一同実感しており、今後も宣教のためにささやかな活動を続けていきたいと考えている。

📖 聖公会の出版物案内

- ・『大齋節中の礼拝』(第7刷)
2017年10月5日付発行 価340円+税
- ・『おいで子どもたち』
2016年10月24日付発行 価756円(税込)
- ・[聖公会手帳2018] 在庫僅少!!
大型判 価2,200円(税込)
小型判 価1,200円(税込)

お求めは聖公書店(04-2900-2771)、またはお近くのキリスト教書店にお問い合わせください。

『信頼のしるし 信経とはなにか』

著者: 前カンタベリー大主教

ローワン・ウィリアムズ師父

原題: “Tokens of Trust”

‘An introduction to Christian belief’ 2007

監訳: 伊達民和

翻訳: 芦屋聖マルコ教会 翻訳の会

出版: 2017年9月(株)教文館

定価: 1,800円+税

世界の聖公会の動向

- ・ エチオピアで神学校長を募集
- ・ 南アフリカ聖公会 海岸清掃の日
- ・ 豪州 難民のための運転指導を提供

管区渉外主事
司祭 ポール・トルハースト

○教会の成長が聖職者の数を上回るエチオピアで神学校長を募集

エチオピアのガンベラにある聖フルメンティ神学校(St Frumentius Anglican Theological College)のために、新たな校長が求められている。エチオピアは国内の教会数が増加しているため、聖職者の養成が急務とされているが、この増加は、スーダンと南スーダンから避難民が到着したことによって引き起こされている。彼らの多くが聖公会の信徒であり、新たな移住地で教会を創設したが、彼らを導く司祭がないのである。聖フルメンティ神学校は、エジプト主教区によって北アフリカと「アフリカの角(アフリカ大陸東端の半島)」に設立され、新たな会衆のため地元の聖職者を養成している。

学校創設者のJohann Vanderbijl宣教師は、次のように述べた。「歴史的に、聖公会はエチオピアにたった1つの教会(アデイス・アベバの聖マタイ教会)しか持っていませんでした。しかし戦争が起こった時に聖公会信徒であったスーダン人の多くが難民として国境を越えエチオピアに避難し、彼らは難民キャンプで教会を始めたのです。当初はおおよそ5つの教会からスタートしましたが、数年後の現在には教会の数は100に届きそうです。問題は、牧師が15人しかいないということです。その誰もが神学的な訓練を受けていません。ですから『アフリカの角』の主教は聖職者のいないこれらの教会を問題とし、ここに神学校を創設する必要があることに気付いたのです。」

そのGrant LeMarquand主教は、「エチオピ

アでの生活は、決して退屈ではありませんでした。多くの聖餐式で犬や山羊が聖卓の下に座り、奉納物に生きた鶏が持ち込まれるのですから」と最近のブログにつづっている。

新しい校長の募集は、聖公会の宣教団体であるCMSによって周知されている。

彼らのウェブサイトによると、聖フルメンティ神学校にはおおよそ20名の正規学生と15名の聴講生がおり、2017年8月には約10名の新入生を受け入れるためクラスの増設を予定している。3名の常勤講師と1名の非常勤講師を抱えており、現在約4,000冊の本を収蔵している図書館、そして3つの教室とチャペルがある。地域の信徒には基本的な聖書の教育がなされておらず、聖職者はほとんどいない。神学校はこの地域の教会の将来的な安寧のためにも不可欠となっている。

○教会が海岸清掃のための日を設ける

聖公会を含む全世界のキリスト教徒に対し、2018年9月に予定されている「海岸清掃プロジェクト(beach-clean-up project)」への参加が奨励されている。9月の第3土曜日は、「国際沿岸清掃日(International Coastal Clean-up Day)」として保全コミュニティに認識されている。南アフリカ聖公会の環境ネットワークは、来年の沿岸清掃の日にあたる2018年9月15日の土曜日に合わせ、世界のクリスチャンに参加を呼び掛けている。

そして、内陸部の教会に対しても「すべての川が海につながる」ということを踏まえ、当日河川の浄化活動に参加することを検討するよう呼びかけた。

「世界にはプラスチック汚染のないビーチはないようだ」と南アフリカ聖公会の環境コーディネーターであるレイチェル・マッシュ博士は語る。「毎日のように海洋におけるプラスチック汚染の増加と、食物連鎖におけるプラスチック含有率の上昇に関する警告が報告されています。教会はどのように対応していますか? 私たちは、教会に対して神に敬意を表し近隣の海岸を見つけて共同体に奉仕するこの活動のため、参加を奨励

しています。」

○教会が難民のための運転指導を提供

シドニーにある聖公会の教会は、近隣に暮らす難民に対し、オーストラリアの道路を運転する経験を与えている。この計画により、人々は国内のさまざまな道路状況に慣れることが可能になる。

「特にシリア人が多いのですが、ここには世界中から多くの人々が集っています。彼らはここで運転の練習をする必要があったのですが、実際に自分の車を買うための資金を持っていませんでした」とチェスター・ヒル教会の担当者である Paul Webb 司祭は述べる。「我々がこの計画を始めたことにより、さらなる結びつきの機会が訪れました。」

運転の指導は、教会による就労指導計画と並行して行われ、6ヶ月前から近隣に暮らす難民がオーストラリア社会に定着する際に必要となる実質的な援助を提供し始めた。

現在、教会には約20人の運転研修生がおり、指導は教会員がボランティアでおこなっている。

研修生は、彼らのレッスンに必要なガソリンやその他のメンテナンス費用をカバーするために15豪ドル(約1,300円)を支払うよう求められるが、教会は長期的には牧会を財政面で支える方法を模索している。「我々はこの計画に多大な努力を払っていますが、運転の指導だけではなく、会う人々に対してイエスについて話すことにも重点を置いています」と Webb 司祭は語った。

第3回アジア宣教会議に参加して

— 大きな学びの機会 —

京都教区 聖職候補生 アンデレ 松山健作

去る10月11日から17日まで、ミャンマーのヤンゴンにてCCA (Christian Conference of Asia) 主催の第3回アジア宣教会議 (Asia Mission Conference) と「CCA 創立60周年記念イベント」(Diamond Jubilee Celebrations) が開催されました。日本聖公会からは、1人の信徒と2人の教役者が出席し、各アジアの教会から参加した代表者たち600名と合流し、有意義な交わりの時間が与えられました。このような大きな会議でどんなことが議論されるのかとワクワクしつつも、難しい内容と慣れない英語、そしてヤンゴンの暑さと雨季の湿気に苦しめられる旅でもありました。

今回の主題は、「旅路を共にする：アジアにおける真理と光の預言者としての証」というものでした。その目的は、①アジアにおいて新たに現れている宣教学的な動向を再発見し、アジアにおける一致した証と宣教的使命のために、教会間で協力可能な領域を見極めること。②諸宗教の人々との対話に関わりながら、エキュメニカル

な宣教的使命についての新たなビジョンを明確にし、アジアの宗教多元的な文脈における展望を示すということでした。

ここでは、二つほど印象に残ったことを記しておきたいと思います。一つは、会議中に行われたすべての礼拝が「アジア的」と表現すれば良いでしょうか。さまざまな土着的な舞踊や楽器、衣装などが用いられ、各国の創作賛美歌を駆使し礼拝が工夫されていたことです。その礼拝の中で、アジアの文脈で起こる政治・社会的な苦しみを取り除れることが祈られました。また宗教



間の対立や葛藤に和解がもたらされることを参加者と共に祈ることができました。文化や言葉、歴史は異なっているとはいえども共通の課題を重ね合わせることでできる礼拝のダイナミズムを感じるひと時となりました。

もう一つは、ディスカッションの中でのエピソードです。各国ともにキリスト教が定着してからある程度の時間を経ています。しかし、その中で既存の宗教との葛藤が深刻であるという報告が注目を呼んでいました。特に私のグループは、インドの方が多く、次にインドネシアやバングラディッシュ、カンボジアや中国などの方々が、口を揃えて既存の宗教との強いわだかまりを解消することが一つの宣教的な課題であると話していました。日本から来た私はその話題にピンときていませんでした。

なぜなら、日本では既存の宗教との目に見える形での葛藤をあまり感じません。むしろ仏教をはじめ各宗教が協力して、社会運動に参加し調和しようとしている状況が日本にあるということをお伝えしました。やはり同じ「アジア」といっても、その地域ごとに個々の宣教的課題には幅があると感じる瞬間でした。その中で、重なり合う部分を持ち寄り、それらについて聖書のみ言葉から

共に考え、これからの宣教のあり方を各現場の課題に反映しようという試みがなされていたところに大きな学びがありました。

CCAの協議会は、もちろんのことながら「アジアのキリスト教」という括りで多様な議論がなされます。その中で感じるのは、教会がそれぞれの文脈においてもがく姿です。その「もがき」は、日本の教会も同様です。もしこの「もがき」が真剣なものでないのであれば、実は神の宣教に参加する熱は冷めていると言えるかもしれません。また宣教の使命を果たしていないと言えるかもしれません。今会議に参加して、現場において無難に平安に過ごすことが大切なのではなく、現場の課題に真摯に向き合い、「もがき」を憶えつつも聖書を読むこと、そこから得られる力によってエキュメニカル運動の一步を踏み出し、預言者的働きが必要であると改めて感じさせられました。日本の教会に預言者としての証が与えられ、神さまの真理の光へと導かれることを願いつつ、会議の時を過ごさせていただきました。このような機会を与えてくださり、快く送り出してくださいました管区・教区・教会のみなさまに感謝しております。



「聖公会手帳 2018」訂正とお詫び

「聖公会手帳 2018」の記載に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

2017年12月 日本聖公会管区事務所

■電話番号の修正

P.235, P.240 鈴木裕二司祭

(追加) TEL/FAX 03-4296-0868

P.269 文屋善明司祭

(誤) 0940-72-4613 → (正) 0940-55-3156

P.278 奥 康功司祭

(誤) 072-275-6101 → (正) 072-249-5670

P.287 中村 豊主教

(誤) 078-777-0855 → (正) 078-777-0885

教会の声 / 読者の声

教会の声 / 読者の声

短歌「東の間」

菊田 米子

ホーホケキョ庭木の蔭より唄い継ぐ雨の合間の
いのちの曲よ
末孫と線香花火に興じけり東の間の花玉となり
落つ
はなやぎし生はひととき赤き灯の玉とし消ゆる線
香花火
雲間より月出で波の音穏やかに寄せては返し我
一人佇つ
夜の海に足を浸して佇めば「ひとり」の自由静か
に迫る
うたた寝の醒めればドラマ終局に人の世も又東
の間のこと

(沼津聖ヨハネ教会信徒)

聖オルバン教会信徒

ドリーン・シモンズさんに旭日双光章
吉松 英美

主の平和

聖オルバン教会の信徒 Dorenn Simmons さんが今年の秋の褒章で旭日双光章を受賞しました。シモンズさんは長年にわたりNHKのBSテレビや海外向け放送の相撲解説を担当。相撲の普及と相撲文化の紹介に貢献したことが認められました。シモンズさんはイギリス生まれ。85歳。1973年に来日、テレビで見た相撲に惹きつけられました。1974年ごろ、「相撲の朝稽古を見たい」という相談を受けた同じ教会の吉松英美が同僚記者の紹介を受けて、大鵬部屋へ案内、朝稽古を見学しました。以来、相撲の魅力に取り憑かれ、次第に相撲部屋に出入りするようになりました。

外務省の研修所で英語を教えながら、国技館通いを続けるうちにその存在が知られ、NHKのBSや海外向けの英語放送で解説者を務めるようになりました。現在は相撲部屋の多く集まる墨田区両国に住んでいます。

聖オルバン教会では最も古い信徒の一人で、周囲からは「生き字引」として尊敬されています。礼拝では聖書朗読、代祷を担当するほか、聖歌隊の一員として活躍しています。

(聖オルバン教会信徒)

短歌「新春」

斉藤 昭一 退職司祭

御子^{ふる}生れ旧きは去りて新約の二〇一八年の
元旦^{あした}迎える
八日目にイエスと命名神与なる罪から救う御名
とはなりぬ
御名のもと御名あがめつつ一年^{ひととせ}を仕えまつらん
肢^{えだ}なる我ら
イエスをばキリストとして降されし計り知れざる
父の御旨よ
天上も地下に至れる万物よイエスの御名にひざ
まづくべし
掬^かとはイエスの御名を信じつつ互いに愛せよと
聖書^{みかみ}は教う
旧と新時代^{わか}を分つ主イエス新約の歴史西暦となる

(仙台在住)

「管区事務所だより」に寄せて

堀 喜男

とかくして風に聴き入る十二月

師走に入りました。何とはなしに気の急く十二月です。「管区事務所だより」(327号)をお送りくださり、ありがとうございます。聖公会全体の動向を知る唯一の公的刊行物であり、貴重な情報源です。特に各教区の人事には特別の関心を持って読んでいます。 2017.12. 1

□「教会の声／読者の声」欄への寄稿をお待ちします。内容・字数は自由。執筆者名と教会を記してください(匿名は不可)。宛先は「管区事務所だより」編集室・広報主事。メールまたは郵便で。

九州教区・九州地震被災者支援室より

支援活動～被災者を「孤立させない」ため～の取り組み 《第11信》
 「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができません。
 艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」ロマ 8:35



主の平和がありますように

主イエス・キリストの御降誕を待ち望む季節となりました。主からの恵みと力強いお導きにより、私たちの命が支えられていることを静かに想いつつ過ごしたいと思います。

九州地震発生（前震4月14日と本震4月16日）から1年8ヶ月が経とうとしています。これまでの様々なご支援ご協力に感謝申し上げます。

あの大地震を直接体験した方々の中には、今なお棚の扉からガムテープを外せない人や枕元に靴を並べている人もおり、味わた恐怖の大きさを思わされます。それぞれが心に負った傷を神さまが癒してくださるようにと願い、具体的なお手伝いに取り組みたいと思います。

●「災害被災者支援室」発足

九州教区では、11月開催の第112教区会において、これまでの九州教区東日本大震災被災者支援室と九州教区九州地震被災者支援室を統合し、今後は、九州教区災害被災者支援室としてこれまでの重要な活動を継続し、今後の災害にも備えることにいたしました。

しかしながら、九州地震被災者支援活動に関しましては、来年4月までは組織を残し、活動してまいります。その後の活動については新たな組織で計画することになります。

●今後の活動について

前号でお伝えしたとおり、現活動体制「2日間の活動を毎月2回」の取り組みは、来年2018年4月14日（土）までといたします。これ以降の活動予定日および責任者は以下のとおりです。3月、4月分については後日調整いたします。

	12月13日（水）～14日（木）	柴本司祭	※14日午後キャロリング
	12月28日（木）～29日（金）	山本尚生	
2018年	1月11日（木）～12日（金）	柴本司祭	
	1月25日（木）～26日（金）	27日（土・朝倉）	山本尚生
	2月6日（火）～7日（水）	8日（木・朝倉）	柴本司祭
	2月22日（木）～23日（金）	山本尚生	

上にあるとおり、九州北部豪雨被災者支援については熊本での活動に続く一日を活動日とする計画です。上手くいくかどうかわかりませんが取り組みつつ調整いたします。

（※各活動についてはフェイスブックで情報を流しています。どうぞご覧ください。）

引き続きお祈りと、ご支援ご協力よろしくお願いたします。

2017年12月 8日

九州教区主教 ルカ 武藤 謙一
 九州教区・九州地震被災者支援室
 室長 司祭 マルコ柴本 孝夫

Merry Christmas and a Happy New Year

+Mabba 首席主教 植松 誠



I come to proclaim
good news to you

Paul Toohart

総主事 エツキ 矢萩 新一

財政主事 マルコ 山中 一

宣教主事 マルコ 谷川 誠

広報主事 エフゲイオ 鈴木 一

マンナ

金子 澄美江

大岡 基

金子 七羽
Cecilia 99

及川 史子

鳥居 雅久

□日本聖公会『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面で的確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の定期購読についてのお問い合わせが増えておりますので、誌面を借りて御案内いたします。

本誌は原則として年に10回発行、1年分の購読料は1,000円です(特別増刊号なども含む)。複数年分まとめてお支払いいただく場合は¥1,000の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年¥500×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。

購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。

電話：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。